

奥州街道宿場町

宿場町から
新たな未来を

富谷

しんまち

VOL.10
最終版

かわら版



開宿400年を越えて、
もっと「歩きたくなる宿場町」へ。
しんまち活性化プロジェクト
分科グループの取り組みも進んでいます！

道中歌に詠み込まれたり、浮世絵の題材になったり
宿場町は、たんに旅人たちの宿の役割を提供してだけでなく
「行ってみたい」「観てみたい」「食べてみたい」という
旅に出たいと思わせる「魅力」を提供していたのです。
しんまち活性化プロジェクトではビジョンに向けて
そんな宿場町のDNAを持つしんまちの地域資源を発掘して、
しっかりカタチにしていきたいと思っています！



訪れたいくなるまちの資源づくり
協議会でもみんなて話し合い

まちの活性化とは何か？ いろいろ考えられると思いますが、しんまち活性化プロジェクトでは、「交流が活発である」ということを中心に考えています。

そもそも宿場町は人々の往来が盛んだったまちですし、それに伴い、様々な飲食品やお土産などの商いも盛んだった訳なので、このヒト・モノ・コトの交流・交易・やり取りというものをしっかり広げていきたいと考えています。

現在、しんまち活性化プロジェクトでは、各分科グループに分かれて、歴史や環境や交流という地域資源の発掘や磨き上げに取り組んでいます。

1月19日(木)に開催された協議会でも、各分科グループの活性化に向けた様々な活動の成果報告が行われました。「来てもらいたい」「見てもらいたい」「巡ってもらいたい」という想いを実現するために、様々な具体的な取り組みがカタチになり始めています。

地元の魅力・歴史を伝える
「紙芝居」かるたづくりを推進

文化歴史グループが取り組むのが、地元しんまちの偉人、内ヶ崎作三郎氏の半生を描く紙芝居。同郷の吉野作造・小山東助とともに熱く東北の未来を語りあった青春時代や、オックスフォード・マンチェスター学院での留学時代、衆議院副議長という要職にまで就いた政治家時代など、当時に思いを馳せることのできる「イラスト」とともに仕上げていきます。

さらにもうひとつは、富谷市全体の歴史の「いろはがるた」。「煙突は酒屋か または醤油屋か」「復活の兆しひろがる 富谷茶に」など、ぜひ市内外の人に覚えてもらいたい地域の歴史を「いろはがるた」にしています。

こちらの紙芝居やかるたは、動画にしてWEBサイトに掲載したり、実際にかるた大会を開催したりと、教材としても使ってもらいたいと考えています。



見てもよし!作っても楽しい! 竹あかりを知ってもら「ワークショップ」

どのようにしたら「しんまちを歩きたくないか?」。環境整備グループではその仕掛けづくりの一環として「富谷の竹あかり」づくりに励んでいます。「見てもよし、作っても楽しい」竹あかりを周知してもらうための「ワークショップ」は、昨年11月からダイシン桂店でも実施。リピーターも増えるなど、竹あかりの魅力の浸透に手応えを感じています。

さらに、東北生活文化大学の学生さんたちへの「竹あかり体験会」も。竹のサイクルを考えながら里山づくり・まちづくり・土づくりをしていく取り組みであることを若い人たちに啓蒙しています。



本格的にカビを防ぐ油抜きも… 竹あかりづくりも進化しています!

竹あかりを広げていく上でクリアしなければいけない課題としては「カビ」。竹を知るに従い、竹には油が多いことが分かり、これを解決する「油抜き」にもチャレンジしています。カマドの火やガスバーナーの炎を竹に直接当てて油抜きする方法を試みて、これが見事に成功。竹から沸き出る油が自らの体を化粧する、天然ワックスには感動しました。

昨年の7月から始めた「富谷の竹あかり」は、本格的に富谷しんまち地区の地域資源になりつつあります。



テーマは「歩きたくない宿場町」へ
「しんまちを歩きたくない」仕掛けとして
竹あかりづくりも、紹介ビデオづくりも…

未来交流グループは 「とみやど」の認知アップビデオ作成

2021年4月17日にオープン予定の富谷宿観光交流ステーション「とみやど」。この「とみやど」を核に交流の輪を広げていく新たな取り組みを計画・展開していきます。

未来交流グループでは、「とみやど」をPRするビデオを作成。ドローンでの撮影も交えて新しい交流拠点であることを伝えるステキな作品に仕上がっています。「とみやど」の雰囲気が伝わってきて、オープンが楽しみです。

さらに、「とみやど」を告知するためのポスターも完成。いよいよオープンに向けて告知活動も展開していきます。

さあ、来年度の活動の大テーマは 「歩きたくない宿場町をカタチにする」!

しんまち活性化協議会では次年度の事業計画の発表とともに、分科会活動に関するアイデアも話し合いました。大テーマは「歩きたくない宿場町をカタチにする」。「サイクリングロード」「夜景が見れるスポットづくり」「和服・着物で街歩き」など、たくさんのアイデアが出ました。次年度の取り組みでしっかりカタチにしていきたいと思います。

「人々が行き交い、出会うまち」。それが「宿場町」の姿だと思います。歩きたくないしんまち・巡りたくないしんまちを目指していきます。



しんまちかわら版、今回が最終版です。
ご愛読ありがとうございました。

「宿場町からはじまる新たな未来づくり」を発信してきました「しんまちかわら版」。今回で最終版となりますが、これからも「しんまち」はステキなニュースを発信していきます。しんまちの活性化にこれからもご期待ください。



しんまちのさまざまな話題を発信!
富谷しんまちの情報発信Webサイト
<https://shinmachi-tomiya.com>